

令和 8 年（2026 年）9 月 10 日

令和 8 年度信州健康ゼロエネ住宅助成金における
外皮計算の評価方法（基礎の線熱貫流率の評価方法）の取扱いについて

■ 基礎の線熱貫流率の評価方法の変更について

- ・ 住宅の外皮平均熱貫流率（UA 値）の計算に用いる「基礎の線熱貫流率」の評価方法について、国土交通省により評価方法の見直しが行われ、令和 8 年 10 月 31 日をもって旧評価方法が廃止されます。
- ・ これに伴い、信州健康ゼロエネ住宅助成金における外皮計算の取扱いを次のとおりとします。

■ 取扱い内容

- ・ 令和 8 年 11 月 1 日以降に提出される交付申請（変更交付申請は含まない。）については、**原則として、新評価方法による評価結果**を用いて申請してください。
- ・ ただし、令和 8 年 10 月 31 日までに住宅性能評価、長期優良住宅の認定における長期使用構造等の確認、省エネ適合性判定など第三者機関へ申請している場合は、旧評価方法による評価結果を用いた申請も可能とします。
- ・ なお、旧評価方法による評価結果を用いて申請する場合は、第三者機関が申請を受理した日を確認できる書類を提出してください。

■ 適用期間

- ・ 令和 8 年度信州健康ゼロエネ住宅助成金に係る申請に適用します。

（参考資料）

別紙 1：住宅の外皮性能に係る評価方法の変更について（国土交通省事務連絡）

別紙 2：外皮計算に係る評価方法の変更の概要（出典：国土交通省）

事務連絡
令和6年7月29日

関係団体 御中

国土交通省住宅局参事官（建築企画担当）付

住宅の外皮計算に係る評価方法の変更について

平素より住宅・建築行政の推進にご協力いただき、誠に有難うございます。

建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（平成28年経済産業省・国土交通省令第1号）第1条第1項第2号イ（1）の外皮基準へ適合させる際に行う外皮計算について、基礎の線熱貫流率及び鉄筋コンクリート造の構造熱橋部の線熱貫流率の算出方法を新たに更新し、（国研）建築研究所が公開する建築物のエネルギー消費性能に関する技術情報（以下「技術情報」という。）の次期更新版へ掲載いたしました。

関係団体各位におかれましては、本評価方法が公開された旨を貴団体関係者へ周知いただくようお願い申し上げます。

なお、各都道府県住宅・建築主務課、各指定都市住宅・建築主務課、所管行政庁、国土交通大臣登録及び地方整備局長登録の各登録建築物エネルギー消費性能判定機関及び各登録住宅性能評価機関に対しても、この旨周知していることを申し添えます。

○基礎の線熱貫流率について

現行版の技術情報第三章第三節「熱貫流率および線熱貫流率」において、別紙1の評価方法（現行評価方法）が公開されているほか、別紙2の従前の評価方法（旧評価方法）についても当面の間使用できるものとしているところです。この度、より実用的なものとするため、現行評価方法から評価可能な基礎断熱の仕様を拡充し、新評価方法（別紙3）として公開いたしました。それに伴い、旧評価方法は以下のスケジュールで廃止いたします。

- ・旧評価方法の廃止：令和8年10月31日

○鉄筋コンクリート造の構造熱橋部の線熱貫流率について

現行版の技術情報第三章第三節「熱貫流率および線熱貫流率」において、別紙4の評価方法（現行評価方法）が公開されているほか、別紙5の従前の評価方法（旧評価方法）についても当面の間使用できるものとしているところです。この度、より使いやすい体系とするため、現行評価方法の合理化を図り、構造熱橋部の組合せ等を拡充し、新評価方法（別紙6）として公開いたしました。それに伴い、旧評価方法は以下のスケジュールで廃止いたします。

- ・旧評価方法の廃止：令和6年12月31日

なお、旧評価方法に基づき、建築物エネルギー消費性能向上計画の認定、長期優良住宅建築等計画等の認定における長期使用構造等の確認、住宅性能評価又は低炭素建築物新築等計画の認定等を旧評価方法の廃止日よりも前に申請するものについて、設計変更等が生じる場合は、旧評価方法の廃止後であっても、引き続き旧評価方法を使用できるものとします。また、旧評価方法に基づき認定を受けた建築物エネルギー消費性能向上計画の変更、長期優良住宅建築等計画等の変更又は低炭素建築物新築等計画の変更等をする場合についても、同様の取扱いとします。

◆ 別紙一覧

別紙１：現行評価方法（基礎の線熱貫流率）

別紙２：旧評価方法（基礎の線熱貫流率）

別紙３：新評価方法（基礎の線熱貫流率）

別紙４：現行評価方法（鉄筋コンクリート造の構造熱橋部の線熱貫流率）

別紙５：旧評価方法（鉄筋コンクリート造の構造熱橋部の線熱貫流率）

別紙６：新評価方法（鉄筋コンクリート造の構造熱橋部の線熱貫流率）

別紙７：外皮計算に係る評価方法の変更の概要

◆ 本件に関する問合せ先

国土交通省住宅局参事官（建築企画担当）付

電 話：０３－５２５３－８１１１（内線３９４７４、３９４５９）

担 当：課長補佐 井波、係長 尾内

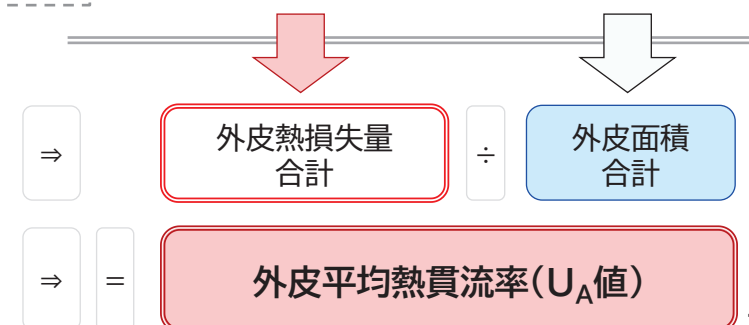
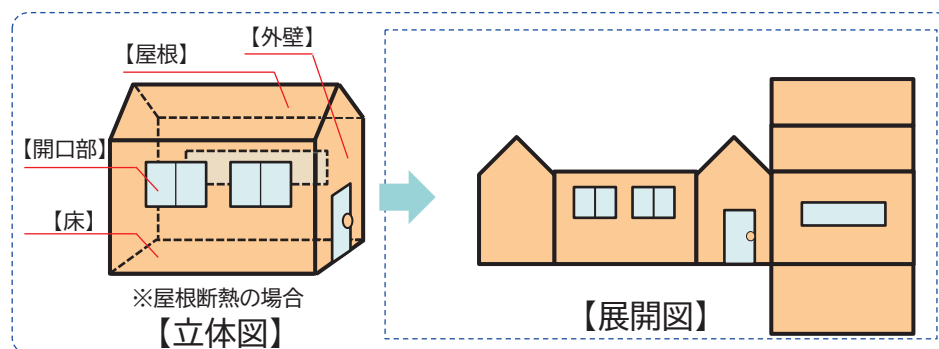
以上

新たな評価方法を公開しました。

- ・基礎の線熱貫流率
- ・鉄筋コンクリート造の構造熱橋部の線熱貫流率

屋根・天井	外皮表面積	×	温度差係数	×	熱貫流率	=	外皮熱損失量	外皮表面積
外壁(基礎壁含む)	外皮表面積	×	温度差係数	×	熱貫流率	=	外皮熱損失量	外皮表面積
開口部	外皮表面積	×	温度差係数	×	熱貫流率	=	外皮熱損失量	外皮表面積
床	外皮表面積	×	温度差係数	×	熱貫流率	=	外皮熱損失量	外皮表面積
基礎	外周長さ	×	温度差係数	×	線熱貫流率	=	外皮熱損失量	土間床面積
構造熱橋部	屋根・天井	長さ	×	温度差係数	×	線熱貫流率	=	外皮熱損失量
	外壁	長さ	×	温度差係数	×	線熱貫流率	=	外皮熱損失量
	床	長さ	×	温度差係数	×	線熱貫流率	=	外皮熱損失量

ORC造・S造の場合、構造熱橋部の熱損失量を算出



基礎の線熱貫流率の評価方法について

現行評価方法

- 基礎形状によらない代表値
- 基礎断熱の形状別の早見表（ベタ基礎2仕様、布基礎2仕様）

早見表の例

表 16a 内側断熱・ベタ基礎の場合（温暖地の参考）

R (㎡ K/W)	R (㎡ K/W)	300未満					300以上450未満					450以上900未満					900以上3060未満				
		1.0以上2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上4.0未満	4.0以上5.0未満	5.0以上10.0以下	1.0以上2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上4.0未満	4.0以上5.0未満	5.0以上10.0以下	1.0以上2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上4.0未満	4.0以上5.0未満	5.0以上10.0以下	1.0以上2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上4.0未満	4.0以上5.0未満	5.0以上10.0以下
1.0以上2.0未満	1.05	0.80	0.76	0.75	0.74	0.73	0.73	0.68	0.66	0.65	0.64	0.62	0.55	0.51	0.49	0.47					
2.0以上3.0未満	1.04	0.80	0.77	0.76	0.75	0.74	0.73	0.69	0.67	0.66	0.65	0.62	0.55	0.52	0.50	0.48					
3.0以上4.0未満	1.03	0.80	0.77	0.76	0.75	0.75	0.73	0.69	0.67	0.66	0.65	0.62	0.55	0.52	0.50	0.49					
4.0以上5.0未満	0.99	0.79	0.77	0.76	0.75	0.75	0.72	0.69	0.67	0.66	0.66	0.62	0.55	0.52	0.50	0.49					
5.0以上10.0以下	0.96	0.79	0.77	0.76	0.75	0.75	0.72	0.69	0.67	0.66	0.66	0.61	0.55	0.52	0.50	0.49					



新評価方法に切り替わり

旧評価方法（当面の間使用可能）

- 基礎形状をパラメータとした一般公式

$$\psi_g = 1.80 - 1.36(R_1(H_1 + W_1) + R_4(H_1 - H_2))^{0.15} - 0.01(6.14 - R_1)((R_2 + 0.5R_3)W)^{0.5} \quad (1)$$

$$\psi_g = \begin{cases} 0.76 - 0.05(R_1 + R_4) - 0.1(R_2 + 0.5R_3)W & (R_1 + R_4 \geq 3 \text{ のとき}) \\ 1.30 - 0.23(R_1 + R_4) - 0.1(R_2 + 0.5R_3)W & (3 > (R_1 + R_4) \geq 0.1 \text{ のとき}) \\ 1.80 - 0.1(R_2 + 0.5R_3)W & (0.1 > (R_1 + R_4) \text{ のとき}) \end{cases} \quad (2)$$

$$\psi_g = \begin{cases} 1.80 - 1.47(R_1 + R_4)^{0.08} & (R_1 + R_4 \geq 3 \text{ のとき}) \\ 1.80 - 1.36(R_1 + R_4)^{0.15} & (R_1 + R_4 < 3 \text{ のとき}) \end{cases} \quad (3)$$

$$\psi_g = \begin{cases} 0.36 - 0.03(R_1 + R_4) & (R_1 + R_4 \geq 2 \text{ のとき}) \\ 1.80 - 0.75(R_1 + R_4) & (R_1 + R_4 < 2 \text{ のとき}) \end{cases} \quad (4)$$

新評価方法

- 基礎形状によらない代表値（変更なし）
- 基礎断熱の形状別の早見表を拡充（ベタ基礎9仕様、布基礎9仕様）

		ベタ基礎			布基礎		
		基礎壁			基礎壁		
		外断熱	内断熱	両面断熱	外断熱	内断熱	両面断熱
土間	土間断熱なし						
	土間コン上面断熱						
	土間コン下面断熱						

グレー：現行評価方法の早見表で確認できる仕様

青：新評価方法の早見表で追加される仕様（ベタ基礎）

緑：新評価方法の早見表で追加される仕様（布基礎）

引き続き使用可能

新評価方法のみ使用可能

旧評価方法を廃止

※なお、旧評価方法に基づき、建築物エネルギー消費性能向上計画の認定、長期優良住宅建築等計画等の認定における長期使用構造等の確認、住宅性能評価又は低炭素建築物新築等計画の認定等を申請するものについて、設計変更等が生じる場合は、旧評価方法の廃止後であっても、引き続き旧評価方法を使用できるものとします。また、旧評価方法に基づき認定を受けた建築物エネルギー消費性能向上計画の変更、長期優良住宅建築等計画の変更又は低炭素建築物新築等計画の変更等をする場合についても、同様の取扱いとします。

現行評価方法

- 旧評価方法の早見表を類型化して整理（44通りの早見表）

早見表の例

表1 鉄筋コンクリート造等の構造熱橋部の線熱貫流率

境界の組合せ	構造熱橋部で取り合う面の組み合わせ	構造熱橋部の特徴	線熱貫流率 ψ_f (W/m K)		
			断熱補強仕様1	断熱補強仕様2	断熱補強なし
	内断熱面と内断熱面	構造熱橋部は生じない			
	外断熱面と外断熱面	壁式構造の外壁と床スラブの取り合い部、外壁と界壁の接合部、その他これと同等の熱損失があると判断可能な形状を含む(以下、本表において「壁式等」という。)	0.80	1.00	1.20
		壁式等以外	0.60	0.60	1.80
	内断熱面と外断熱面	壁式等	0.35	0.70	0.85
		壁式等以外	0.30	0.85	1.40

新評価方法に切り替わり

新評価方法

- 現行の早見表を一部**合理化**（78通りの早見表）
 - T字型の熱橋部分を追加
 - 代表値の取り扱いを追加（断熱補強仕様が不明な場合）

表1 鉄筋コンクリート造等の構造熱橋部の線熱貫流率

境界の組合せ	構造熱橋部で取り合う面の組み合わせ	構造熱橋部の特徴	線熱貫流率 ψ_f (W/m K)		
			断熱補強仕様1	断熱補強仕様2	断熱補強なし
	内断熱面と内断熱面	構造熱橋部は生じない			
	外断熱面と外断熱面	壁式等	0.55	1.00	1.05
		壁式等以外	0.60	0.60	1.80
	内断熱面と外断熱面	壁式等	0.20	0.60	0.70
		壁式等以外	0.30	0.85	1.40
	内断熱面と内断熱面	構造熱橋部は生じない			
	外断熱面と外断熱面	壁式等	0.50	0.85	0.85
		壁式等以外	0.80	0.80	1.20
	内断熱面と外断熱面	壁式等	0.35	0.70	0.85
		壁式等以外	0.30	0.70	0.75

旧評価方法（当面の間使用可能）

- 柱梁等の形状による180通りの早見表

早見表の例

表2 鉄筋コンクリート造等住宅の熱橋形状等に応じた線熱貫流率(続き)

断熱層を貫通する形状	断熱形式	断熱補強の有無	線熱貫流率 ψ_f (W/m K)	
			断熱補強仕様1	断熱補強仕様2
	外断熱 (室内1、外気3)	あり	0.85	0.85
		なし	2.60	
		あり	0.60	0.60
		なし	1.80	
		あり	0.50	0.50
		なし	1.05	

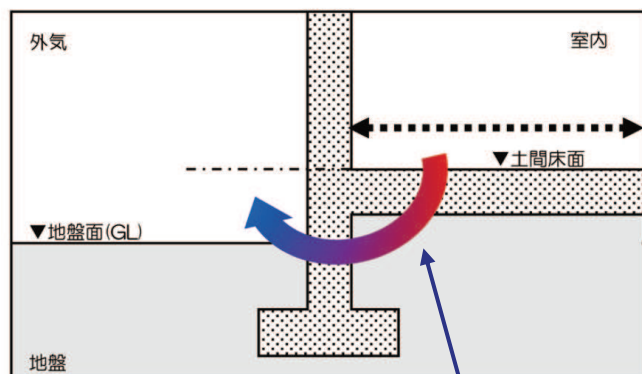
旧評価方法を廃止

※なお、旧評価方法に基づき、建築物エネルギー消費性能向上計画の認定、長期優良住宅建築等計画等の認定における長期使用構造等の確認、住宅性能評価又は低炭素建築物新築等計画の認定等を申請するものについて、設計変更等が生じる場合は、旧評価方法の廃止後であっても、引き続き旧評価方法を使用できるものとします。また、旧評価方法に基づき認定を受けた建築物エネルギー消費性能向上計画の変更、長期優良住宅建築等計画の変更又は低炭素建築物新築等計画の変更等をする場合についても、同様の取扱いとします。

〈参考〉 線熱貫流率について

● 基礎の線熱貫流率について

◀▶▶ 土間床等の外周部の熱損失の対象範囲



【基礎の線熱貫流率】
基礎断熱の際に土間床から回り込んで逃げていく熱

● 鉄筋コンクリート造の線熱貫流率について

